

●鎌倉市本庁舎整備方針市民対話（第 1 回）を開催しました。

鎌倉市は平成27年3月に策定した鎌倉市公共施設再編計画に基づいて、「現在地建替え」、「現在地長寿命化」、「その他の用地への移転」について検討し、平成28年度末までに整備方針を策定することとしており、その策定に向けた取組を始めました。

■鎌倉市本庁舎整備方針市民対話（第 1 回）

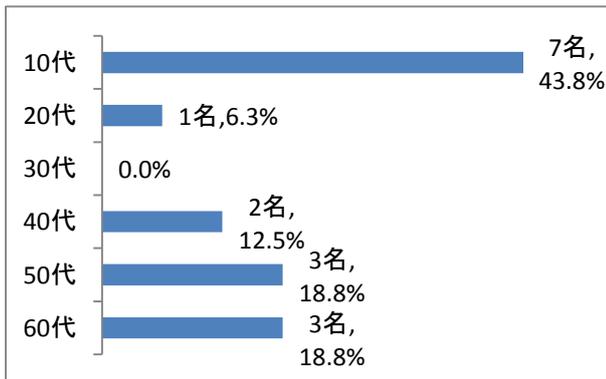
市民目線や市民感覚を取り入れた「本庁舎整備方針」を目指し、本庁舎の現状と課題について市民の皆さんと共有するとともに、具体的に本庁舎に求める機能と性能や本庁舎整備とまちづくりなどをどのように考えるか、市民の皆様が考える多様な意見を伺っていくため市民対話を開催していくこととし、その第1回を開催しましたので、その概要をお知らせします。

■市民対話メンバー

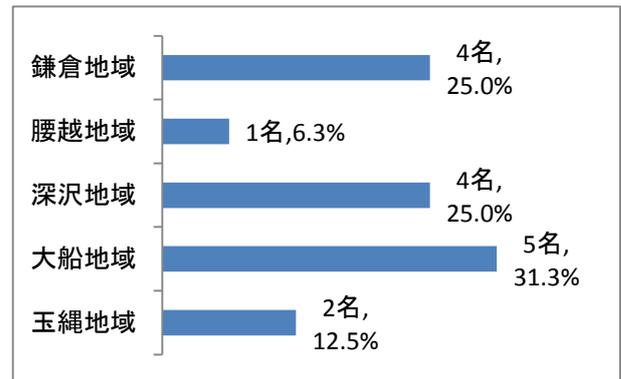
次の方々の中から参加を希望された方16名

- ・無作為抽出により案内状を送付した市民1,000名（参加者10名）
- ・市内の高等学校（10校）、大学（鎌倉女子大学）の市内在住の生徒・学生（参加者6名）

<参加者の年齢分布>



<参加者の居住地域>



■開催概要

第1回市民対話では、公共施設再編や本庁舎整備についてのこれまでの取組状況を紹介するとともに、実際に本庁舎を見学していただきました。（内容は裏面のとおりです。）

日時 平成28年6月11日（土）

10時00分～12時00分

会場 鎌倉生涯学習センター（きらら鎌倉）

4階第6集会室

参加者 14人（本庁舎見学は13人参加）



説明の様子

1. 鎌倉市の公共施設再編への取組について

次の世代に過大な負担を残さないために、鎌倉市公共施設再編計画の策定背景とその方針などについて説明しました。

2. 本庁舎整備方針の策定に向けて

現在の本庁舎の建物等に関する課題、本庁舎に求められる機能、規模、市政 e-モニターアンケート等の結果などを説明するとともに、近隣市の本庁舎整備状況を紹介しました。

【説明概要】

○現在の本庁舎の課題

- ・老朽化の課題 建物の耐久性、建物の老朽化
- ・防災・構造の課題 津波に対する脆弱性、耐震性の課題、
- ・機能の課題 市民サービス機能が不十分、ユニバーサルデザイン・バリアフリー対応が不十分、不十分なセキュリティー、情報化への対応の限界、庁舎の狭あい・分散による業務の非効率



本庁舎（昭和 44 年築）

○本庁舎に求められる機能

防災対応機能	建物の経済性	環境対応	使いやすい・安心できる市民サービス機能	市民交流機能	ユニバーサルデザイン	効率的な行政機能
--------	--------	------	---------------------	--------	------------	----------

○本庁舎の規模

市民の利便性向上のため、分散する庁舎機能や支所（窓口機能）などの業務の集約化を想定した職員数により面積算出をした場合、約 25,000～30,000 m²の面積が必要。

3. 本庁舎の見学

参加者に庁舎内及び屋上を見学していただきました。

【参加者からのご意見と感想】

最後に参加者からご意見・ご感想をいただきました。

- ・いろいろな課題が多いと思いますが、ベストな方法を見つけていくことができればと思います。
- ・色々な課題があることがわかり参加できてよかったです。
- ・次回からは高校生という視点をいかして積極的に発言をしてみたいと思っています。
- ・防災・減災を考えると早急な対応が必要かと思えた。
- ・真剣な取組みにまず感じました。



本庁舎見学の様子（本庁舎屋上）

■今後の進め方

引き続き、本庁舎整備方針策定に向けた市民対話を開催していきます。併せて、更に広く市民意見等を取り入れるため、協働・拡張ワークショップを開催する予定です。